

人と人、人と地域を結ぶ

— 住み続けたいまち「木田」をめざして — 木田公民館

1 木田地区の概要

木田地区は、福井市を流れる足羽川左岸にあり、木田橋・板垣橋・足羽大橋の南に広がっている。

その歴史は古く、木田遺跡（今の新木田公園）からは、弥生時代後期から古墳時代初めの土器や鍬の柄、勾玉などが出土しており、弥生時代には集落が営まれていたことがわかる。中世になると、奈良興福寺の荘園となり、「木田荘」と言われた。明治以降も「木田村」として、農村的景観を残したまま豊かな水田地帯として発展してきた。

大正14年に福武電気鉄道が開通し、昭和11年には福井市に合併し「木田地区」となった。その後、市街地の拡大にともない、住宅地の増加と田畑の減少が徐々に進み、今に至っている。

平成16年7月18日の福井豪雨では、木田地区（春日1丁目）で足羽川堤防が決壊し、地区の1,352戸が全壊、半壊、床上・床下浸水などの被害を受けた。今は完全に復興し、新たな人口の流入が多くなっている。

地区内には、医療機関、商業施設等が多く、子育て支援施設や文化・教育施設も近くにあることから、特に最近では、子育て世代の増加が著しい。

平成28年8月1日現在、世帯数は5,244戸、人口は14,018人である。

2 「集い・学び・結ぶ」～地域を支え、つなぐ～

(1) 学び合いで伝える伝統野菜による「郷土学習」

木田地区では、「木田ちそ、木田青かぶ、板垣大根」が古くから栽培されている。これらは「福井の伝統野菜」に認定されているが、市街地化が進むにつれて栽培農家の減少や高齢化が進んでいる。

木田公民館では、この伝統野菜を絶やすことのないように、また、若い世代にも伝統野菜について知ってもらおうと、郷土学習を開催してきた。子どもから大人までが参加し、公民館の畑で、種まき・間引き・除草・収穫・料理を体験し、農家の苦労と収穫の喜びを感じるとともに伝統野菜の特徴やよさを学習している。

「木田ちそ」は、150年ほど前から栽培されていて、ちぢれが強く、肉厚で色が濃く風味がよいので、梅干しづくりに欠かせない赤紫蘇である。調理実習では、ちそジュースや梅干しづくりの他、様々なスイーツや料理を学習した。昨年はジュースで使った葉っぱを美味しく食べる方法も学び、ゴミを減らす工夫も知った。

「木田青かぶ」は、しばらく途絶えていたが、地区の農家によって生産が復活した。これも栽培から体験し、年末に雑煮等の調理を行っている。

「板垣大根」は、細身で辛みのある大根で、今年度は伝統料理の「するめ大根」や「おろしそば」にして味わう予定である。

このような郷土学習を継続する中で、新しい広がり生まれた。学んできたことをミニレシピ本「木田ちそをおいしく食べよう」にまとめて配布したところ、多くの方がレシピを活用してくださり、「木田ちそ」のよさを伝えることができた。福井市の他の地区でも、ちそジュースづくりが広がり始め、「木田ちそ」のよさが他の地区にも認められてきていると感じる。

このような学び合いを通して、地域文化への理解や地区に対する誇りと愛着心を育み、木田の伝統を守り伝えていくことができると考える。



【木田ちそ、木田青かぶの収穫】

(2) 地域を結ぶ「げんきだ・やるきだ・クリーン木田」

木田地区では、地域コミュニティのさらなる活性化と、人と人、人と地域を結ぶ「絆」づくりに取り組んでいる。各自治会から選出されたまちづくり委員が中心となり、関係団体との密接な相互協力の下、地区の住民が、誇りと夢をもち、のびのびと・楽しく・安心して住めるまち「木田」をめざし、3つの部会で様々

な活動を行っている。

○「げんきだ」【福祉部会】

地区の高齢者の方に、明るく元気で頑張っていたかくことを目的とし、体操・演芸・語り合いによる「元気の出る会」を開催している。今年度は一人暮らしや男性高齢者の参加を増やし、コミュニケーションを深める場にしていきたいと考えている。

○「やるきだ」【人づくり部会】

新たな人口流入と核家族化が進む中、地域コミュニティの活性化と高齢者の生きがいづくりを目的として、「三世代交流事業」を開催している。

平成27年度は、子ども・保護者・お手伝い委員等を合わせて約300名が参加した。子どもたちは、昔懐かしい伝承遊びとして、「風ぐるま」「わりばしてっぽう」を地区の高齢者の方から教わったり、参加者全員で56mの「ジャンボ長巻き寿司」を完成させたりする中で、交流を深め合った。



【風ぐるま作り】

また、平成28年3月に、地区住民の心と心をつなぎ、地区をよく理解してもらうことを目的として、広報誌「きだより」を創刊した。年2回の発行で、暮らしに役立つことや地域の課題などの情報を発信し、人と地域をつなぎ、絆を深めるよう努めている。

○「クリーン木田」【環境部会】

地区を花いっぱいにするために、平成7年度から、自治会の方と協力して、公園や街路樹の下に花苗を植える活動を行っている。



【明倫中学生と花苗植え】

平成27年度からは、明倫中学校の生徒が、明倫公園で花苗植えや撤去作業に参加し、地区の方と一緒に汗を流している。生徒はプランターカバーも制作し地区に寄贈した。

その他、「花の寄せ植え」や「プランターの土の再生法講習会」、「花のまちづくり視察研修会」、「セイタカアワダチソウの駆除活動」にも取り組んでいる。

このような活動を通し、郷土愛や自然を大切にすることを育んでいる。

(3) 木田の若い担い手 青年グループ「きだやっこ」

これまで、若者の地域活動への参画の少なさが課題の1つであったが、平成28年度「きだやっこ」という青年グループを組織化することができた。20代～30代の青年6名が、今年度の「木田夏まつり」



【水てっぽうでやっつける！】

の夜店で「水てっぽうでやっつける！」を担当し、子どもや地区住民とふれ合いながら活動した。

これを一歩とし、今後、さらに多くの若い方が参画し、地区をつなぐ担い手として活躍することを願って支援を行っている。

3 終わりに

木田地区は、年々新しい家庭が増えているが、人口が増加するなかで人間関係が希薄になり、地域活動への関心が薄くなる傾向にある。

このような中、今まで以上に住みよい豊かな地区とするためには、新しい方や若い方々とともに地区の課題を考え、力を合わせて活動を進めていくことが何より大切である。新しい担い手を掘り起こし育成しながら、常に新しい風を入れるよう努力していきたい。

さらに、住民自らが地区の魅力を理解し、元気で活力があり、安心・安全に暮らせるまちづくりへの参画意識を高めつつ、互いに支え合う仕組みづくりや豊かさを育む「地域力」を培い、木田地区を活性化したい。

今後も、公民館として、様々な活動によって生まれた小さな輪をつないで大きな輪へと働きかけ、人と人、人と地域を結ぶ絆を育み、住んでよかったまち・住み続けたいまち「木田」をめざしていきたい。

木田地区の方々には、地区に誇りをもち、住み続けたい地区となるよう様々な活動をされています。また、木田公民館では、ここにあげた活動の他にも、青少年育成の学習「木田っ子クラブ」や家庭教育支援の学習「あんだんて」、ボランティア活動推進学習「フルール」、「男の料理」など、たくさんの学びの場を設定しています。このような地域の人をつなぐ「集い・学び・結ぶ」活動の「要」に、いつも公民館が存在していることに、改めて感銘を受けました。